かちまいスポーツ

初の準優勝で東日本高校女子大会の出場権を得た帯大谷（前列中央が河瀬紗侑主将）

帯大谷 躍進 準V

ソフトボール女子 全国高校道予選会

来年3月東日本大会へ

とわの森に0―1惜敗 帯南商3位

ソフトボールの第57回道選手権大会兼第40回道高校大会兼第40回全国高校選抜大会道予選会（10月2、3日・はまなす国体記念石狩市スポーツ広場、道ソフトボール協会など主催）の女子の部で、帯大谷（坂本文子監督、選手14人）が初めて決勝まで勝ち進み、2年連続24度目の優勝を果たしたとわの森三愛（江別）に0―1と惜敗したものの、準優勝と躍進した。とわの森三愛は全国高校選抜大会（来年3月19～22日・広島）に、帯大谷は東日本高校女子大会（同26～29日・群馬）の出場権を得た。十勝の高校が東日本に進むのは、2014年の帯南商以来7年ぶり。河瀬紗侑（さゆ）主将（2年）は「一戦ごとにチームが強くなっていった。東日本大会は楽しみ。どんな相手にも立ち向かっていきたい」と力を込めた。帯南商も3位と健闘し、帯三条は1勝して準々決勝で惜敗した。（北雅貴）

強豪に逆転勝利

準々決勝が最初のヤマ場だった。2年ぶり5度目の優勝を狙う札幌東商と対戦。二回に2点を先制。直後に4点を失い、追い掛ける展開になったがチームには勢いがあった。河瀬主将は「全員が絶対に勝つんだという気持ちが強かった」とボールに食らいついた。結局、河瀬主将の本塁打や栗田茉央（1年）の2本の三塁打と二塁打など長打9本の猛攻を浴びせて10得点。会心の逆転勝利を収めた。

準決勝を四回コールドの14―1で勝ち、3年連続で阻まれていたベスト4超えの扉をこじ開けると、決勝は伸び伸びと戦った。捕手の中村美琴（2年）が大川茉帆（1年）を好リード。「茉帆はテンポが良かった。球も走っていたので、配球を考えて上位打線を打ち取れた。内外角を投げ分け、特に外角低めのコントロールが良かった」と振り返った。六回に三塁打と安打の連打で決勝点を奪われはしたが、力投が光った。

内野ゴロが多く、野手陣も堅守で応えた。バント処理で三塁手の河瀬主将が一塁へ送球。三塁ベースが空いたが、左翼の木幡結比（ゆうひ、1年）が猛ダッシュでカバーし、一塁手の高橋愛華（2年）の送球を受け、三塁を狙った相手の一塁走者をアウトにした。

1番打者で右翼手の坂本美優（1年）も活躍。北見市出身でソフトボールのために帯大谷へ。「帯広は上手な人がいっぱいいる」と驚きつつ、外部指導者の坂本監督の指導を受けて汗を流した。札幌東商戦は中堅手の頭上を越える三塁打など2安打。決勝も一回表に左翼線へ三塁打を放ち好機をつくった。次打者のスクイズで本塁へ突っ込みタッチアウトに。「ちゃんとバントしてくれたのに、自分のスタートが悪かった」とさらなる成長を誓った。

基礎練習コツコツ

3年生が5月に引退後、2年生6人、1年生8人の「経験値の浅い選手が多かった」（坂本監督）状態で新チームがスタート。決して簡単ではなかったが、守備では基礎練習を繰り返し、打撃ではバットを振り切る意識を強く持った。今秋の十勝大会は帯南商に5―6で競り負け2位で全道へ。ミーティングで自分たちの甘さと全道制覇の目標を確認、再び練習に励んだ。今大会前には2人の3年生が手伝い支えてくれた。

東日本大会は関東や東北など25チームほどが集結する。河瀬主将は「強豪校と戦い、来年の道高体連へつなげたい。とわの森を破ってインターハイへ出場するために」と前を見据えた。

◇1回戦（関係分）

札幌啓成 0000020 0 / 1020021× 6 2
【札】山崎―武山
【帯】藤田―鈴木
▽本塁打＝大塚、鈴木（帯）
▽二塁打＝高井、加藤（札）藤田（帯）

帯三条 4 5 4 2 / 北見緑陵・北見商 0 1 0 0 1 5
【帯】沼田―中村
【北】喜多―能智
▽本塁打＝木幡（帯）
▽三塁打＝水越2、中村（四回コールド）

帯南商 0 0 0 1 0 0 1 / 札幌月寒・北広島西・札幌平岸 1 1 1 4 0 8 1
【帯】二本柳、上野―高松
【札】大川、武藤―田中、角田（五回コールド）
▽三塁打＝内村（帯）

◇準々決勝

帯三条 2 0 1 0 1 0 2 3 3 / 釧路北陽・釧路江南 7 0 1 0 1 2 × 12 11
【釧】藤田―鈴木
【帯】八木沢―宮北
▽本塁打＝藤田（帯）宮北（釧）
▽三塁打＝武田、八木沢（釧）
▽二塁打＝佐々木、鈴木（帯）宮北2、八木沢、高橋、武田（釧）

帯大谷 0 2 1 4 0 1 3 0 0 / 札幌東商 0 4 0 1 0 0 6 10
【帯】佐藤、大川―中村
【札】萬田―宮塚
▽本塁打＝河瀬（帯）
▽三塁打＝栗田2、河瀬、坂本、木幡（帯）宮塚（札）
▽二塁打＝栗田、水越、内海（帯）宮塚（札）

帯南商 3 0 0 0 0 0 3 / 遠軽 2 6 0 0 × 10 3
【遠】佐藤、亀田―兒玉
【帯】大川、竹ケ原、大川、武藤―田中、角田
▽本塁打＝兒玉（遠）吉田（帯）
▽三塁打＝竹ケ原（帯）
▽二塁打＝江森（帯）

◇準決勝

帯大谷 2 0 0 5 7 / 釧路北陽・釧路江南 0 0 0 1 14
【帯】大川―中村
【釧】八木沢―宮北
▽本塁打＝内海（帯）
▽三塁打＝笠井（釧）
▽二塁打＝水越2、中村（四回コールド）

帯南商 0 0 0 0 0 0 0 / とわの森三愛（江別） 0 0 4 2 0 1× 7 0
【帯】大川―田中
【と】佐竹―木村
▽三塁打＝川代（帯）木村、佐竹、富樫（と）
▽二塁打＝江森（帯）門脇（と）

◇決勝

帯大谷 0 0 0 0 0 0 0 / とわの森三愛 0 0 0 0 1× 1 0
【帯】大川―中村
【と】佐竹―木村
▽三塁打＝坂本（帯）佐竹（と）
▽二塁打＝高橋（帯）

<帯大谷女子>
▽監督＝坂本文子
▽引率責任者＝岡部翔太
▽マネジャー＝鈴木碧羽
▽選手＝①大川茉帆（1年）⑤坂本美優（同）⑦沼田夏蓮（同）⑧西山果純（かすみ、2年）⑩河瀬紗侑（さゆ、同）⑫内海苺花（まいか、同）⑭吉岡亜美優（同）⑮高橋愛華（同）⑯水越彩絢（さや、1年）⑰佐藤杏奈（同）⑲中村美琴（2年）㉑栗田茉央（1年）㉔木幡結比（ゆうひ、同）㉖杉田杏梨（同）
※選手の丸数字は背番号

帯広クレインズ 頂点

財団杯女子IH

アイスホッケーの第28回財団杯女子大会（帯広市文化スポーツ振興財団主催、帯広市教委共催）最終日は1日、帯広の森アイスアリーナでリーグ戦1試合を行った。2戦全勝同士の対決となった最終戦は、帯広クレインズレディースが高須クリニック御影グレッズに2―0と完封勝ちし、4年連続5度目の優勝を果たした。大会は4チームが参加。10月21日に開幕し、リーグ戦で熱戦を繰り広げた。（北雅貴）

4年連続5度目の優勝を果たした帯広クレインズレディース

準優勝の高須クリニック御影グレッズ

粘りの守り完封

帯広クレインズレディースが3試合連続の完封勝ちで、今季初となる十勝大会を優勝で飾った。安宅奈々監督は御影グレッズ戦を振り返り、「まずは失点をしなかったことと、決定力はまだまだだが、シュートへの意識や姿勢は良かった」と一定の評価を与えた。

第1P10分、FW佐藤愛梨のゴール裏からのパスを受けたFW野澤加奈枝選手兼コーチが先制点。第3P6分にはDF野村春菜が相手ゴール前に攻め上がり、冷静に追加点を挙げた。

今季から主将を務める杉江未菜は「粘り強く守り切れている。それぞれが責任のあるプレーを心掛けているのが無失点につながった」と話した。パックを持った相手にプレッシャーをかけるのがやや遅れるなど、攻め込まれたりもしたが危なげなかった。

今季は新型コロナウイルスの影響でオータムレディースカップ（9月3～5日・札幌）は中止に。10月上旬の女子日本リーグ1次リーグは開催されたものの、実戦不足が否めない中、DF岡田唯愛、FW山岸彩嘉、FW山口来夏の中学1年生トリオが今大会は大幅にプレー時間を増やした。安宅監督は「成長がすごく見られた。積極性が目立った」と目を細めた。

昨季は女子日本リーグ7位、全日本女子選手権大会は6位だった。杉江主将は「今シーズンは全国大会で5位以内を目標に掲げている。意味のある練習をし、価値のある試合を積み重ねて自信を付けていきたい」と今後を見据えた。

◇リーグ戦

帯広クレインズレディース 2（1―0、0―0、1―0）0 高須クリニック御影グレッズ
▽得点【帯】①佐藤愛→野澤（1P10分56秒）②野澤→野村（3P6分34秒）
▽反則【帯】3（下山、岡田、杉江）【高】2（寺内、村谷）
▽シュート数【帯】38（16、8、14）【高】15（4、6、5）
▼順位＝①帯広クレインズレディース3勝②高須クリニック御影グレッズ2勝1敗③レッドトレジャー1勝2敗④帯畜大3敗

果敢に攻めて好ゲーム演出

御影グレッズ

○…高須クリニック御影グレッズは2点を失ったものの、GK関口愛香を中心に守り、好ゲームを演出した。

第1Pの序盤は互角の展開。同Pの後半や第2Pは梅森遥愛主将、川上章子、勅使川原小梅、佐藤わかならが持ち上がりシュートを放つ場面も増えた。

登録選手数も昨季より倍近い18人に増えるなど明るい材料もある。日光アイスバックスなどでプレーし、U―20男子日本代表や東洋大でコーチを務め、今大会初めて指揮を執った山口和良コーチは「ゴールに向かう姿勢は良かったし、2失点で抑えられたのも収穫」と手応えを感じていた。

勝毎杯アイスホッケーBプール

（23日・帯広の森アイスアリーナ）◇6部

帯広開発建設部 8（2―3、3―1、3―3）7 あひるー1

▽得点者【帯】西岡4、太田2、川崎秀、原田【あ】吉田真一3、泉、清水亮、吉田真和、清水隆

清水町リーグ

◆第36回清水町社会人アイスホッケーリーグ（22日・清水町アイスアリーナ）

◇A級

チームMIKAGE 12（4―0、3―5、5―3）8 清水町役場

▽得点者【チ】高橋3、大澤2、志田2、榛澤2、表2、里村【清】井上4、中島2、板倉、小笠原

▽アシスト【チ】高橋3、表2、志田2、大澤2、里村、榛澤【清】城3、山下、中島、水津、板倉、下保
▽反則【チ】0【清】0
▽シュート数【チ】39【清】41

きょうの勝因

6部・帯広開発建設部 DF西岡駿（20）

相手が走ってくるチームだったので疲れましたが、決めるところをしっかり決めることができたのが勝因だったと思います。

▽アシスト【帯】川崎秀2、前田、原田【あ】吉田大2、清水隆2、吉田真一、泉、清水亮、大江
▽反則【帯】4【あ】6
▽シュート数【帯】34【あ】44

プレスカップ カーリング

◇予選リーグ（23日・カールブレックスおびひろ）

【男子】
EAST!BOYS 0 2 0 2 0 0 1 / 3 0 2 0 2 0 1× 8 5
レクスいしざむらい 3 0 2 0 2 0 1×× / 帯広アベンジャーズ 3 0 2 0 4 0 1×× 9 4
FuLiS 0 0 0 3 0 2 0 ××× / カールブレックスJr. 6 4 1 2 0 2 0 ××× 15 3

写真がほしい▼0120・25・9410 著作権などにより販売できない写真もあります
ファクス▼0155・25・2700 Eメール▼sports@kachimai.co.jp